

第十五回 上林曉忌短歌大会

入賞作品

選者 晋樹 隆彦 先生

【特選】

20 この頃の妻は「九時迄畑です」朝寝のわれに書き置きのある

四万十市 多賀 一造

28 空爆の街の犬、猫、鳥たちに怯え隠るる場所のありしや

高知市 依光 ゆかり

32 ああこれが地球の色だと思うまで碧あおきちゆら海に吸い込まれゆく

高松市 角 広子

【植田馨賞】

30 こころ病む子はだしぬけに婆さんとうそうだ九十よばあさんなんだ

黒潮町 秋沢 香代子

【秀作】

6 山間やまあいの風に吹かるるヤマトグサ雄蕊ふるるるるるるるるるるるる

佐川町 市川 浩司

9 外つ国に由来すというタンポポの帽子をふわり風にのせたり

高知市 柿内 光彦

15 横文字の多き歌詞にて英辞典くびっぴきなり孫と唄えば

土佐清水市 小川 良江

18 雲切れて社叢の蟬が二、三鳴く暮れる港に梅雨明け近し

土佐清水市 池 直美

27 熟成の美酒のやうなる歌読みてこよひことばの苑に酔ひたし

土佐山田町 中西 敏子

【佳作】

24 「太陽のタマゴ」という名のマンゴーはきつと足摺岬の夕陽

広島市 下田 佳子

31 今をらば龍馬も踊らむよさこひ節鳴子両手に帯屋町筋

四万十市 野田 尚子

35 久々に潤う畑や両の手に露こぼれけり菜花を摘めば

佐川町 麻田 洗子

37 楊梅やまももの滲みにほへる通学路ひるさがりの傘たたみあゆめり

高知市 森田 睦子

38 菅の根の乱るる戦すえ知れず「死にたくない」と少女は涙

四万十市 東 利江

49 越後湯沢なんてやさしきひびきなりあくがれて待つ紫陽花のころを

黒潮町 谷脇 巴